

広告

野外劇と演奏会を原点に――

まちの発展を願い、 市民が力を合わせた20年

石狩市市制施行20年の節目を迎えて思うこと



平成8年8月3日、市制施行記念事業として行われたいしかり歴史野外劇「躍動―石狩は今」より

札幌に府を置き給わば、
石狩は日ならずして大坂の
繁盛を得ることであろう



総務課 小林 睦

この松浦武四郎の言葉から始まる市制施行記念事業いしかり歴史野外劇「躍動―石狩は今」は、平成8年8月3日、石狩川河口橋左岸特設舞台で行われ、出演から小道具、大道具、衣装に至るまで、市民や市内の団体約1500人が作り上げました。

同じ年の10月27日に開催された「フロイデ in 石狩'96演奏会」も、市制施行を祝ってベートーベン第九交響曲「歓喜の歌」の大合唱をしようと数名の発想から始まり、団員集め、練習、広報など全て市民が行いました。

これら2つの事業は、単に市制施行記念事業という枠を超え、まちの発展を願う市民の想いがつまったものでした。野外劇、演奏会の成功へ向けたそれぞれの想い、その熱量たるや「石狩の人々にはこれだけのパワーがあるのか」と素直に感動させるものでした。

平成8年9月1日に石狩町は北海道34番目の市となり、平成17年10月1日に旧厚田村、旧浜益村と合併し、現在の石狩市がかたちづくられました。この20年間における石狩市の発展は、まさに市民力の発現、発展にほかならないものです。その根源の一つとして、野外劇と演奏会での体験があったのかもかもしれません。

ここで、市制施行からの20年を振り返ってみましょう。